



～ 拘束をしない認知症介護～

要介護認定を受けておられる方の50%以上が、また施設入居者に至っては80%以上の方が、認知症を患っています。リハビリセンター白鳥でも、特養では90%以上の方が認知症です。

施設によっては、フロアの出入口や玄関、エレベーター等が施錠されており、自由に出入りできないようになっていたり、利用者ご本人をベッドや車椅子に縛り付ける身体拘束を行っている所も少なくありません。

しかし、リハビリセンター白鳥では、認知症のご本人が何に不安や混乱を抱き、どんなことを望んでおみえなのか…。様々な職種がそれぞれの専門性に基つき、観察や情報収集を行い、その背景の理解に努め、ご本人の気持ちに寄り添いながらケアに努めています。

勿論、全てが理解できる訳ではなく、推測、おもんばかった対応を日々、試行錯誤しています。こうした積み重ねは利用者かの信頼感を得ることに繋がり、穏やかに過ごされる時間も増えていきます。

結果として、鍵を掛ける介護、身体拘束を行う介護を必要としなくなります。

リスクがゼロになる訳ではありませんが、認知症の方の尊厳を大切にしたい介護を日々、行っていきたくと考えています。

ご家族のご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。



リハビリセンター白鳥の今をお伝えするニュースを、定期発行させていただきます。
是非、お目通しください。

リハビリセンター白鳥 職員一同